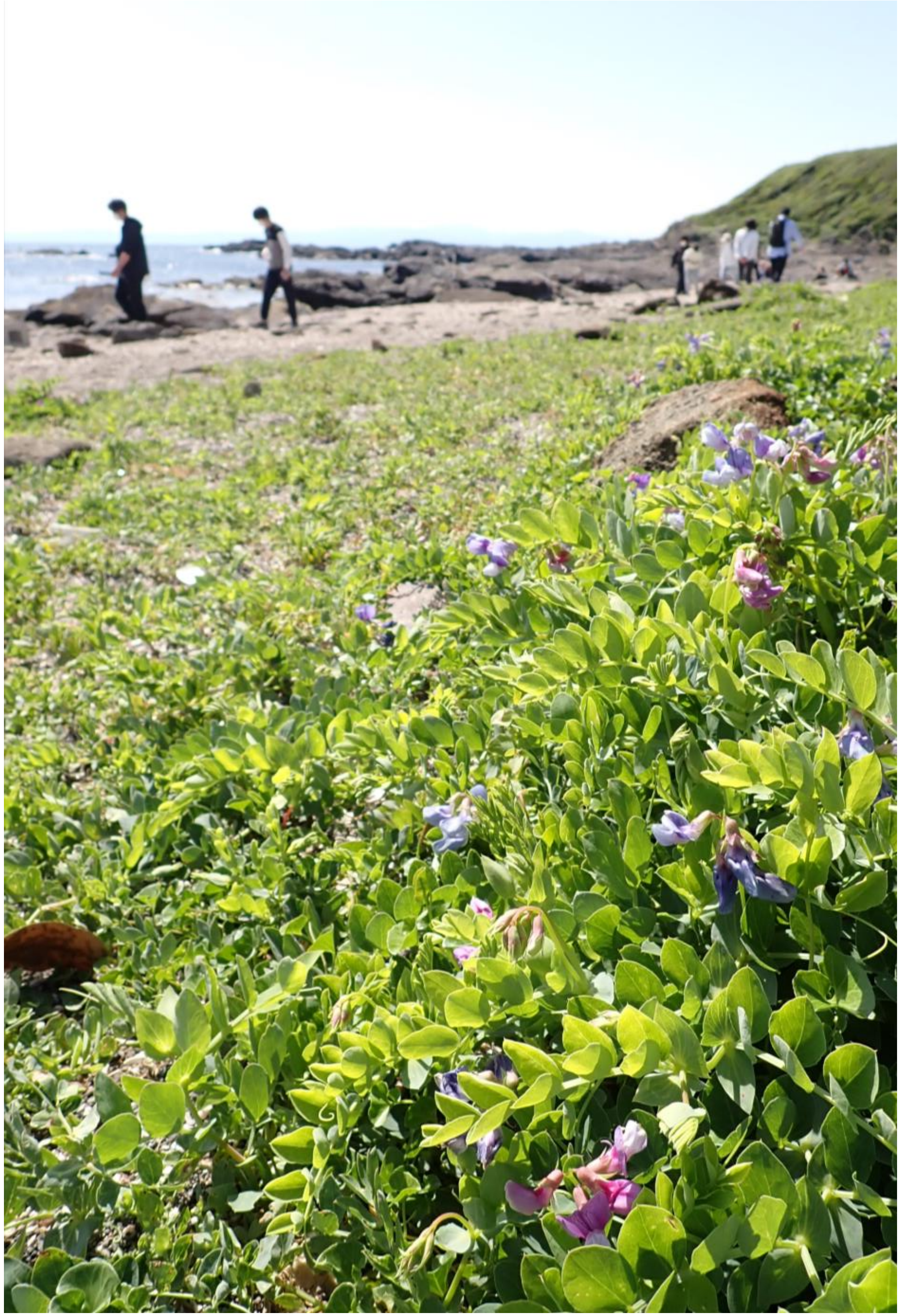
OWS
Research and Education
Non-profit organization
The Oceanic
Wildlife Society

REPORT 2022

2021.04～2022.03

特定非営利活動法人 ＯＷＳ
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-13 シャトレー代々木704



沿革

1998年 11月●OWS創立総会開催　渋谷区恵比寿に事務局を設置
1999年 02月●北西ハワイ諸島ミッドウェー環礁に現地事務所設置
06月●ミクロネシア・パラオに現地事務所設置
09月●東京都NPO法人の認証取得
2000年 02月●各種会員の募集開始
03月●会報「季刊エブオブ」創刊
08月●公式ホームページ開設
2001年 02月●会長にジャック・T・モイヤー氏、副会長に倉田洋二氏　就任
06月●ネイチャースクール（自然体験学習プログラム）開始
2002年 01月●OWSネイチャーガイド養成コース開始
04月●アンガウル州立自然公園プロジェクト開始
09月●事務局を目黒区下目黒に移転
10月●海のセミナー開始
2003年 06月●水中ゴミ調査開始
09月●アンガウル州立自然公園ビジターセンターオープン
11月●海のトークセッション開始
2004年 05月●長谷川博氏（東邦大学理学部教授）OWS会長就任
06月●海辺の自然教室開始
2005年 09月●インド洋クリスマス島においてボランティアプログラム開始
10月●事務局を豊島区雑司が谷に移転
2006年 01月●メンバーによる各活動の実行委員会を設置、運営開始
2007年 07月●OWS　5人の写真展（巡回写真展）開始
2008年 03月●北限域の造礁サンゴ分布調査プロジェクト開始
05月●砂浜海岸生物調査開始
2009年 09月●ネイチャースクール　日帰りプログラム開始
2010年 03月●造礁サンゴフィールド図鑑～伊豆・三浦・房総編発行
05月●海辺のナチュラリスト講座開始
2011年 04月●東日本大震災　被災地支援活動開始
06月●ミッドウェー環礁調査ツアー実施
2012年 06月●江奈湾干潟保全活動開始
06月●未来に残したい海プロジェクト・自然観察&カメラ教室開始
12月●子どもフォトコンテスト開始
2013年 04月●江奈湾・毘沙門湾干潟生物調査開始
07月●海洋ゴミ企画展開始
11月●事務局を渋谷区千駄ヶ谷に移転
2015年 04月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での造礁サンゴモニタリング調査 開始（新サンゴ調査プロジェクト開始）
2017年 10月●国立環境研究所の業務委託を受け、全国10海域での魚類調査開始
2018年 09月●OWS創立20周年と国際サンゴ礁年の特別イベントとして、海のセミナー2018　海の話・サンゴの話を開催
11月●世界最北のサンゴ礁対馬サンゴ礁の水中ごみ回収活動実施
2019年 10月●長崎県五島市福江島のオオスリバチサンゴ調査実施
2020年 02月●世界アルバトロスデー＆シーバードウィーク実行委員会結成
長谷川会長が委員長就任、OWSが運営事務局となる
07月●和歌山県那智勝浦町のゆかし潟保全活動開始
2021年 02月●WEBサイトリニューアル、主要な活動を4プロジェクトに統合

組織概要

名称	OWS（オーダブリュエス） （OWSという名称は The Oceanic Wildlife Society （英語表記） の頭文字からとったものです）
所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷4-27-13 シャトレー代々木704 TEL: 03-6432-9917 FAX: 03-5960-3546 URL: https://www.ows-npo.org/ E-mail: info@ows-npo.org
目的	OWSは、国内外の海洋域における自然環境及び生物とその生態系について、科学的な調査及び研究を行い、その結果得られた情報及び成果の有用な活用とその自然環境の維持・保全を目的とした活動をもって、地域社会に貢献するとともに、環境保護意識の普及を図ることを目的とする。
役員	会長　長谷川 博 代表理事　横山 耕作 副代表理事　高砂 淳二 理事　森 紀子 理事　宮川 貴子 理事　杉森 雄幸 理事　池上 喜代壱 監査役　福田 秀人 法律顧問　矢田 誠

2021年度の活動実績

事業名	事業内容	実施時期	実施場所	支出額（円）
自然体験学習事業	子ども対象自然体験学習プログラム「ネイチャースクール」の開催	6月～3月（3回）	神奈川	266,712
普及啓発事業	会報 「季刊 エブオブ」発行及び配布	4月・8月・11月・2月（年4回）	全国	1,655,286
	環境学習用教材「海洋ごみ写真パネル」の貸出	2月（1回）	神奈川	
	海洋ごみ企画展「海洋ごみについて考えよう」の開催	3月（1回）	山口	
	海洋ごみをテーマとした講演	9月～2月（4回）	東京	
	世界アルバトロスデー＆シーバードウィーク イベント開催（実行委員会事務局として）	6月（イベント1回）	全国	
調査研究事業	造礁サンゴモニタリング調査の実施	10～2月（10海域）	全国	3,710,119
	魚類調査の実施	10～2月（10海域）	全国	
環境保全事業	江奈湾干潟観察会の実施	6月～3月（3回）	神奈川	863,609
	江奈湾干潟生物調査の実施	5月（1回）	神奈川	
	和歌山県ゆかし潟ベントス調査実施	7月～8月（2回）	和歌山	
	出前授業の実施	2月（1回）	神奈川	
事業支出額				**6,495,726**

海の子プロジェクト

●ネイチャースクール

協賛：オリンパス

①6月26日　海辺の自然観察（磯・砂浜海岸）
開催地：城ヶ島　参加者数：12名

②7月25日　海辺の自然観察（磯・干潟）
開催地：江奈湾　参加者数：25名

③3月19日　海辺の自然観察とごみ回収体験
開催地：江奈湾　参加者数：25名

海洋ごみ
プロジェクト
普及啓発事業

海洋ごみプロジェクト

● 海洋ごみ写真企画展 「海洋ごみについて考えよう！」

写真パネル22枚とごみ標本の展示
開催日時：2022年3月12日（土）
開催場所：山口市KDDI維新ホール

● 海洋ごみ講演　含むオンライン講演

①9月25日（土）品川区環境情報活動センター

②11月16日（火）豊田通商社員対象

③11月29日（月）東大大学院

④1月29日（土）港区立環境情報センター

参加者：86名

サンゴ調査
プロジェクト
調査研究事業

サンゴ調査プロジェクト
モニタリング調査＆魚類調査

●サンゴ＆魚類調査

◆各調査実施日

①天草	10月6日
②安良里	10月16日
③田子	10月17日
④坂田	10月31日
⑤沖ノ島	11月1日
⑥壱岐	11月10日・11日
⑦対馬	11月13日
⑧串本	11月24日
⑨五島	12月7日・8日
⑩竜串	1月19日

参加者：35名

干潟保全
プロジェクト
環境保全協力事業

江奈湾干潟保全活動

● 観察会/ごみ回収活動

①5月15日 観察会・ごみ回収活動
回収ゴミ量：189kg

②9月20日 観察会・ごみ回収活動
回収ゴミ量： 419kg

③1月22日 観察会・ごみ回収活動
回収ゴミ量： 256kg

参加者：51名

● 干潟生物調査

5月29日　9回目江奈湾干潟生物調査
参加者：11名

干潟保全
プロジェクト
環境保全協力事業

江奈湾干潟保全活動

江奈湾干潟でのゴミ回収量

10年間 32回の回収

江奈湾ごみ回収記録		
年度	回数	回収量
2012年度	3	1,307.8
2013年度	4	1,051.8
2014年度	6	652.4
2015年度	4	1,109.2
2016年度	3	474.7
2017年度	2	297.4
2018年度	3	775.0
2019年度	3	506.5
2020年度	0	0.0
2021年度	4	1188.1
合計	32	7,362.9

7,362.9 kg

干潟保全
プロジェクト
環境保全協力事業

江奈湾干潟　不法投棄ごみ撤去

● 神奈川県土木事務所によるごみ撤去開始

1回目　12月3日～6日　軽トラック40台＝16トン
2回目　02月3日～6日　軽トラック25台＝10トン

◆合計約 26トンを撤去

撤去の様子を会報「エブオブ」82号で報告

※フェンスのすぐ裏側は、表面に盛土
され一見きれいになっている
（2022年2月11日撮影）

干潟保全
プロジェクト
環境保全協力事業

江奈湾干潟　不法投棄ごみ撤去、その後

崖下の様子　2月11日撮影

フェンスの裏側（崖下）には、未だ
撤去されていない投棄ごみが山積

撤去されたごみ量は**全体の半分程度**と考えられる。

引き続き撤去要請を
継続する。

干潟保全
プロジェクト
環境保全協力事業

江奈湾干潟保全活動

● 江奈湾の地元との連携・協力

①9月20日 観察会・ごみ回収活動に校長
教頭他教員3名が参加　学校施設使用

②2月11日　剣崎小学校出前授業

③学習教材パネルを長期貸し出し
各学年で活用

④学校イベントでOWSの活動を紹介

干潟保全
プロジェクト
環境保全協力事業

ゆかし潟保全活動

●ゆかし潟生物調査実施

7月～8月で2回4日間の実施

①会報 エブオブ−83号で活動報告掲載

②ゆかし潟干潟の生き物web図鑑制作・公開

③論文化「南紀生物」投稿済み

記録種　170種以上
RD種　　41種以上

エブオブ発行
普及啓発事業

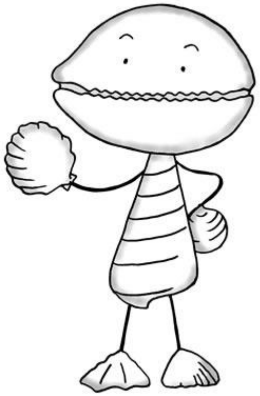
会報「季刊 エブオブ」の発行

● 4月20日発行（春号）　Vol.81
特集：「ムツゴロウ目線の有明海再生論」
執筆：田中克（京都大学）

● 8月20日発行（夏号）　Vol.82
特集：「ウナギはどこにいる～環境DNA解析で生物を採らずに分布を調べる」
執筆：笠井亮秀（北海道大学）

● 11月20日発行（秋号）　Vol.83
特集：「ゆかし潟調査報告」
執筆：横山耕作

● 2月20日発行（冬号）　Vol.84
特集：「サンゴの一斉産卵・生態学的意味とそのメカニズム」
執筆：野澤洋耕（台湾中央研究院）



OWS
Research and Education
Non-profit organization
The Oceanic
Wildlife Society

ご支援いただいた企業･団体　2021

＜寄付＞　順不同

◆「NoxPlayer」　Nox (HongKong) Limited
◆エーティー技研株式会社
◆つなぐ未来
◆株式会社 東京マツシマ
◆ブラザー販売株式会社
◆盛岡市動物公園ZOOMO
◆トヨタモビリティ東京 株式会社
◆聖心女学院
◆株式会社ドゥ･ハウス
◆豊田通商株式会社
◆世田谷区立烏山小学校
◆株式会社アド近鉄
◆ドルトン東京学園
◆日本ネイチャージャーナルクラブ
◆リコージャパン 株式会社

＜活動協賛＞

◆オリンパス株式会社

＜業務受託＞

◆国立環境研究所　造礁サンゴモニタリング調査
◆国立環境研究所　魚類調査

＜法人賛助会員（スポンサー）＞

●株式会社ピックルスコーポレーション
●華山運送株式会社

2022年度の活動予算

事業名	事業内容	実施日	実施場所	支出額（円）
自然体験学習事業	子ども対象ネイチャースクールの開催（磯海岸）2回	6～9月	関東	557,389
	親子対象ネイチャースクールの開催（干潟）2回			
普及啓発事業	会報 「季刊 エブオブ」の発行	年4回	全国	1,782,381
	学習教材パネル（海洋ごみの写真パネル）の貸出	随時	全国	
	海洋ごみをテーマとした写真展の開催	随時	全国	
	講演「海洋ごみを考える」の開催	随時	全国	
	「減プラスチックNGOネットワーク」活動への参加	随時	全国	
調査研究事業	造礁サンゴモニタリング調査（国立環境研究所受託）	10～2月	全国	4,194,276
	魚類調査（国立環境研究所受託）	10～2月	全国	
	造礁サンゴ探索調査（静岡）	10～11月	関東	
環境保全協力事業	江奈湾干潟保全活動・観察会・ごみ回収（3～4回実施）	5～3月	関東	716,337
	江奈湾干潟生物調査	6月	関東	
	干潟ネットワーク調査（紀伊半島・ゆかし潟）2回開催	8～10月	和歌山	
事業支出額				**7,250,383**